

平成 28 年一番茶実収報告

京都府農林水産技術センター
農林センター茶業研究所

1. 摘採日

仕立て法	本年	前年	前5か年	平年
自然仕立て	5月2日	4月30日	5月8日	5月7日
弧状仕立て	5月4日	5月2日	5月9日	5月7日

注) 平年は、平成6年～平成27年までの22年間の平均値

2. 生葉収量 (kg/10a)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	522.5 ± 74.2	75	507.6 ± 59.1	73	699.1 ± 61.5	100
弧状仕立て	378.6 ± 90.6	103	325.5 ± 82.6	89	367.3 ± 84.1	100

指数は前5か年平均を100とした場合の比。

3. 百芽重 (g)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	重量	指数	重量	指数	重量	指数
自然仕立て	43.5 ± 13.5	86	46.0 ± 4.0	91	50.9 ± 4.0	100
弧状仕立て	65.4 ± 14.8	136	73.0 ± 13.5	152	48.2 ± 7.7	100

4. 新芽数 (本/m²)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	526.2 ± 96.7	76	460.8 ± 62.5	66	694.0 ± 71.9	100
弧状仕立て	1028.3 ± 215.4	61	1121.7 ± 134.3	66	1690.0 ± 350.1	100

注) 自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

5. 出開き度 (%)

仕立て法	本年	前年	前5か年平均
自然仕立て	32.8	35.9	50.9
弧状仕立て	42.7	40.2	73.7

6. 概要

(1) 摘採日

本年は、自然仕立て園、弧状仕立て園ともに萌芽期が平年より早く、4月の平均気温が平年より高かったため、一番茶摘採日は自然仕立て園では5月2日で前5か年平均より6日早かった。弧状仕立て園では5月4日で前5か年平均より5日早かった。

(2) 生葉収量

自然仕立て園では、新芽数、百芽重ともに前5か年より少なく、10a当たりの生葉収量は522.5kgで前5か年平均より少なかった。弧状仕立て園では、新芽数が少なかったが、百芽重が多く、378.6kgと前5か年平均並だった。

(3) 病害虫の発生状況

当所におけるフェロモントラップによる5月末までの越冬世代の誘殺状況調査の結果、チャノコカクモンハマキでは、誘殺数は平年よりやや多く、誘殺盛期は4月第6半旬と平年より早かった。チャノホソガでは、誘殺数は平年より少なく、誘殺盛期は4月第3半旬と平年並だった。

一番茶期の当所茶園において、カンザワハダニの発生が一部見られた。終盤には、チャノミドリヒメヨコバイ、炭疽病の発生が一部見られた。

(4) 茶市場の出荷状況

全農京都茶市場への出荷量は、6月3日現在、対前年度最終実績比で手摘みてん茶が80.8%、はさみ摘みてん茶が92.7%、かぶせ茶が79.4%、煎茶が80.3%と少なく、手摘み玉露が105.8%と多く、はさみ摘み玉露が96.9%と前年並となっている。